

# かけはし通信 NO.14

ご挨拶

会長兼企画部長 木戸武宣



- 新年会でお話したことを、少し詳しく述べます。
- シニアユニバーシティに入学し、この 4 月で 8 年目を迎えます。
- 10 年目の記念パーティーを目指し、これからの日々を大事に過ごしていきましょう。
- (総勢 87 名の会員が継続僅か 1 名減)
- 期別の状況は、6 期 49、8 期 70、9 期 81、10 期 87、11 期 87、13 期 76、14 期 106、15 期 110 計 579 名 連合会計 3,300 名
- 連合会について
  - 常任理事会(隔月開催)を通じ各協議会の連絡調整
  - 市の高齢福祉課の窓口(活動ステーション優先予約)
  - 市の補助金及び連合会費の配分
  - 文化祭芸能発表会・作品展及びさいたまの主導
  - これらの活動を通じ学友会、校友会全体が回っていきます
- 協議会について
  - 連合会の決定を受け、協議会が受け皿となって各期に活動を要請・推進します
  - 北浦和協議会独自の事業
    - ✓ 地域貢献活動：浦和おどり、お元気倶楽部、尚和園慰問、荒川クリーン作戦
    - ✓ レクリエーション活動：北協演芸会、ボウリング大会、ゴルフコンペ
    - ✓ 講演活動等：優れた行事を北協としてバックアップ  
轡田講演会(11 期)、ふれあいコンサート(6 期)、落語鑑賞会(8 期) 県警プラスバンド(9 期)(他に吉武まつ子コンサート 350 名、蓮池薫講演会 1850 名、一女吹奏楽 300 名)
- 本年度は、私が会長兼企画部長、池田さんが副会長兼総務部長(広報も兼任)長町さんは、副会長(企画部から通算 3 年)を努めました。本来の業務に加え兼任と重なり大変負荷がかかりました。十分責務を全うしましたのでこれを機会に役員は退任します。
- 役員改選と日程  
来年度の役員改選に臨み、新役員については、次期理事会で決めていただきます。私が会長を引き受けた 2 年前、新理事の互選で会長を選定し、新会長が他の役員を指名しました。文字通りそれを実行します。  
3 月 15 日新旧理事で役員改選の協議  
4 月 19 日総会  
決算、新役員人事、予算、新年度計画の決定



- 私たちは、行動より口動が達者になっています。実行力には衰えが見え始めていますが、他に対する批判は鋭くなって、相手を傷つけてしまうことがあります。建設的な提言を封じるものではありません。
- 口は災いの元です。口害に気をつけていきましょう。その一言が、死を招くことがあります。口を謹んで、**かわいい老人**になりましょう。オレオレ詐欺などに遭わないよう**賢い老人**になりましょう

PS

今週から3月。残す行事は、さいたまマーチだけとなりました。連合会の理事会が3月14日、北協が3月15日です。

2月27日久保会長の代わりに、文化祭のあり方懇談会に出席しました。文化祭を活性化するにはどうするか等の懇談会です。目玉となるエンターテナーを招く、優れた演目に賞をだす、地元の無形文化財を紹介するなど面白い提案が出ました。結論は、次年度の企画部に委ねることとなりましたが、次回の理事会で報告があります。来年度に生かせればいいですね。

**企画部報告**

(9月以後)



1. 介護に関する講演会
2. 新年会&ボウリング大会

11月の理事会の決定により両行事の分離開催

ボウリング大会 1月13日 17名 新年会 2月9日 48名

- 会の趣旨がはっきりし、かつ新年会の参加者も減らなかった  
外部出演者に頼まず自前で賄ったので費用が節減できた
- 企画部担当が、会の運営を種々工夫して皆さんの納得のいく成果を上げ、かつ大いに費用の節約もできました。

出演者の貢献も大でした

3. 2回目の班交流会 1月~3月 進行中

班交流の趣旨を踏まえ、組み合わせを変えて実施中

当番の班長には、ご苦勞をおかけします。



グループ	班	予定、場所
A	5, 3, 4	3/9 ラフシ秋が瀬
B	6, 1	3/14 造幣局見学と食事 13名
C	8, 10, 12	2/1 実施 14名参加
D	9, 2, 11	3/23 桜茶屋 14名参加予定

4. バス旅行は中止

32名の方に申し込みをいただきましたが、中止のやむなきに至りました。大変申し訳ありません。

企画部の努力不足をお詫びします。

形だけの勧誘ではなく、実質的な効果ある方法をとれなかったかなど反省する点は大きいにあります。



平成 22 年 5 月にシニア大学北浦和校第 10 期に入学第 6 班に所属、同大学院を卒業して、北浦和校第 10 期校友会に入会し現在に至っている。

今期上記の広報部を含んでの大役を受ける事になり、自己能力の限界を感じながらも、皆様のご協力を頂きながら、自分なりに役割を果たして来たと思っています。

木戸会長と共に、毎月開催される北浦和協議会理事会に出席、各期の活動の様子を伺うことが出来ました。そして北協行事には、率先して協力して来ました。各期会長は当番制で更に連合会理事にもなり、連合会行事にも協力して行かねばならず、会長のご負担は大きいものと思っています。

しかし誰かがその負担を背負い、会長にならなければ校友会組織は成り立ちません。そして、皆さんの協力によって組織は成り立って行くものと思っています。

しかしながら、自分自身も 80 歳を超え、加齢による難聴、思考力の低下と物忘れ、多くの高齢者が体験していることを実感しています。ただ、校友会の皆様方は、一般的な高齢者よりも思考力も優れ、活動的な人達が多く、積極的に行動されて人生を楽しんでいる方が多いと思っています。

今後 10 期校友会がどのように進んでゆくかわかりませんが、私はみんなが仲良く気持ちよく、協力して行けるような会になる事を期待しています。

### 総務部報告

◆ 定例総会を平成 29 年 4 月 19 日（水）9:30～ パルコ 10 階「第 13 集会室」で開催。

- ★ 第 5 回理事会（新旧合同）を 3 月 15 日（水）9:30～ 常盤公民館 1 階講座室で開催。
- ★ 第 6 回理事会（新旧合同）を 4 月 6 日（木）9:30～ //
- ★ 会計監査を 4 月 2 日（日）10:00～ パルコ 9 階コムナーレで開催。
- ★ 広報誌「かけはし通信 NO.13」平成 28 年 9 月発行
- ★ // 「かけはし通信 NO.14」平成 29 年 3 月発行
- ★ 「校友会からのお知らせ」随時 6 回発行
- ★ 会計報告書及び予算案の作成
- ★ 議事録の作成





## ＜演芸担当＞

副会長 長町園枝



平成29年2月19日（日曜日）第24回連合の＜芸能発表会＞が南浦和の「さいたま文化センター大ホール」で開催された。

我が10期は「大学かぞえ歌」で出場、男性8人、女性17人の混声合唱。コスチュームは男性は金のベストに帽子と、＜なかなかイケメン？＞である。女性はレディの様に首からストールを巻き、肩に花を、頭にティアラと、皆さんとても似合っている。

私たちの出番が来た。指揮者の佐藤邦子さんがまず舞台の中央に、そして皆んなが続いてステージに並び、佐藤さんの手が上がり「ひとつとせ」という掛け声に心を合わせ歌い出した。

どうした事か2行とばして先に進むアクシデントがあったが、平然と次に進んでいった。

たしか「3つとせ」あたりで、場内から笑い声が・・・・・・。

この「大学かぞえ歌」は、佐藤邦子さんが作詞され、人生の出会いから別れまでを、ユーモアにパロディ一風に作詞され、終わりは、シニア大学が楽しい所だと書かれています。

「すごい才能ですネ」この10分間のステージで「チーム長町」の役目が終わった。

この2年間演芸担当者として、皆さんと楽しくをモットウにやって来れた事は、皆さんの協力があればこそです。来年も健康に気をつけて、舞台に立ちたいと思った。

## ＜写真の中の8人の美女軍団＞



平成28年11月＜北浦和協議会演芸会＞に「アニメ体操」で出場した皆さんです。

日比野よし江さんに指導して頂き、また衣装も個人の大事な物をお借りして、元気に踊った。水戸黄門の時は、会場内の人達も巻き込んで楽しい時間を共有出来た。

日比野さん有難う。そして皆様お疲れ様でした。

毎年一月七日に七草粥を食べる習慣は我が家にもあります。とは言っても材料は手に入り易い物、芹、なすな、すずしろの三種類です。

お正月の豪華な食べ物で疲れた胃をいたわり、ビタミンを補給して風邪の予防をすると聞きました。

セリ、ナスナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケのザ、スズナ、スズシロこれぞ七草、昔覚えた春の七草は忘れないのですが・・・・。

さて、秋の七草は何故か忘れてしまうのです。どうしても一つだけあれだったか、これだったか、いくら考えても判りません。気になっていたのですが、子供達に聞きましたら「ネットで引けば直ぐに判るよ、一人でやってごらん」と言われてしまいました。

シブ シブ調べました。オ、ス、キ、ナ、フ、ク、ハ、-----  
お好きな服は？

わあ ----- 感激です。何てお洒落な覚え易い言葉なんでしょう。

オ・女郎花、ス・芒、キ・桔梗、ナ・撫子、フ・藤袴、ク・葛、ハ・萩、こんな覚え方もあったんですね。物忘れのひどい私でも、これならば覚えていられそうです。

何となく 嬉しい一日でした。



私だけじゃありませんよね

10班 平田嘉穂子

宝塚に夢中な娘が、矢継ぎ早に云うトップスターの名前、聞くそばから忘れていく。聞き返すのもおそろしい。私の話に「それ百回聞いた」と云ってくる。有名人の名すら忘れ我慢して考え続ける。購入していた本をまた買ってしまう。忘れ物をしてバスや電車で遠方まで取りに行く。手間、時間、お金の無駄をわざわざ作っている。他にもいろいろ失敗がある。こうも続くと私は何をしているのだろう。脳細胞がプチプチとはじけ溶けてゆく、気持ちがずんと沈み込む。



年齢だ年齢だで済まされない。五感を研ぎすまし自覚せよ、覚醒せよ、ほほをパッチンとたたき気合を入れる「私はまだ若い」。

おっと、ショウウィンドーに写るまざれもない我が姿、あわてて背筋を伸ばし、にっこり口元を上げる。ああー、気の抜けない日々を送る年齢になりました。



## 圧迫骨折

4班 代 安子

8年前の夏、夫が腹部大動脈の出血により、救急車で入院。その晩6時間近く成功率50%に賭けての手術となりました。

幸いなことに手術は成功。さあー、それからが老々介護の始まりです。多忙なナースの手を煩わせまいと、力のなくなった病人を起こしたり、重い洗濯物や食べられそうな物をタッパーに詰め、毎日の病院通い。自分の食事はそこそこに。

そんな無理をしたためか、元々骨粗鬆症だった私の背中は何を追うごとに痛くなり、ある朝、激痛でさっと起きられなくなってしまい、あまりの痛みに整形外科へ。

「背中の中の圧迫骨折です。ギブスを作りましょう。」そして身長と体重の計測となりました。えっ！

そんな・・・。身長10cm減、体重10kg減（これはラッキー？）耳を疑いました。介護介護で自分の体を顧みなかった結果かも・・・。

その後も2度の骨折や痛みで背中はずっかり曲り悲しい姿になってしまいました。ある日友人が「同じような方がいるわよ。」と新聞を持ってきて下さり、

そこにノートルダム清心学園の渡辺和子シスターの対談が載っていました。

『3度の圧迫骨折、身長が14cm縮み、背中が丸くなってしまっただが、そんな自分も好きです』と。

私は痛がったり、嘆いたりして家の中に閉じこもっていましたが、このままではただ年を取るばかり。

（その頃は介護から解放）置かれた場所で咲きなさい、と背中を押されました。

何かなくてはと思い、シニア大学への入学を決心しました。こんな体で、と不安でしたが、沢山の方々に親切にして頂き、感謝しております。皆さんが優しく、乗り物の席を取って下さったり、荷物を持って下さったり、ありがたくお礼申し上げます。変形した背中の中の痛みは未だ癒えず、ご迷惑をおかけしています。いつもありがとうございます、本当にありがとうございます！！



## 楽しい「ひまわり会」

11班 栗城信代

「ひまわり会」は2か月に1回集まり、お互いに親睦を深め、元気であることを確認し合って、4月、6月（かけはし通信 No13 掲載）7月、9月、10月、12月実施しました。

10月は担当の方が迎賓館の見学を申し込んでくれましたが、海外からのお客様訪日のため延期となり、また2月の見学予定許可日が校友会の行事などと重なってしまい、実現できないままの状態になっておりますが、3月末までには実現できることを期待しております。

12月の忘年会では、今年も健康で過ごせたことに感謝し、来年も無事に過ごせます様にと祈りを込めて、和気あいあいとよくしゃべり笑い、アツという間に時間が過ぎました。記念の写真を撮りました。



両親の最期は妹が看取り、長男である兄や私は離れて生活していた。母の死後、妹の夫（義弟）が約半年後脳出血で倒れた。義弟の「病」という形で両親のいなくなった後、新しい兄妹関係が始まった。義弟は数回、脳の手術を受けたが病状が思うようでなかった。妹は何もかも不安で精神的に参ってしまい、私や兄に愚痴をこぼし、何とか精神の安定を保っていた。そして、妹夫婦には高額の治療費支払と義弟には脳障害が残った。何とか命をつなぎ止めることができたことが不幸中の幸いであった。

そんな中、実家の古家を取り壊すことにした。懐かしいものを片付けながら久しぶりに兄妹3人で何泊か過ごした。

他愛のない雑談で、これからの生活を暗示するような言葉を兄が口にした。これからは「困った事があったら、まず自分たちの子供に相談しよう。」兄の口から出された。私も妹も子どもたちは皆、遠方にいて忙しい。ましてや、愚痴まで話せる状況にない。兄妹皆、高齢者だから当然なことだが、何だか一瞬「冷ややかな空気」が流れた。これが兄妹なのか。「兄弟は他人の始まり」と言うが、他人になって行くのか。そう思った。私も妹も反論などできず、「そうね」とだけ答えた。

日常生活で使っていた衣類などがすべて片づけられ、そして今まで育んできた家族の人間関係も変わる。これが親の「死」ということなのだ。実感した。

古い家族法によれば「家督相続」により家の存続が第一であり、家系は消えることは無い。だが、現行民法では「子」は誰もが同じ立場で女も男も、長男も二男もない。皆、相続も親の介護も扶養も均等だ。私の両親も新しい家族法により一生を終え、私たち子供はそれぞれが自由に生きている。我が家だけでなく、多くの家庭が同じような状況だと思う。

戦後、夫婦と子供中心の「核家族」は家制度から解放され素晴らしかったに違いない。しかし現在は少子化で、しかも海外など遠方で働き、家を離れ生活している子供も多い。そんな中、老後を子供に頼ることは非常に難しい。

今、日本は世界に例を見ない超高齢社会を迎え、厳しい現実と直面している。私たちは知恵を絞り、各自が自分を守り生きていくしかないのだろうか……良き高齢期の生き方を見出すのは難しい。誰か教えてほしい。





私は、2016年の4月から新都心のMOVIX さいたまに、月に何度も通い詰め、いろいろな形の映画を楽しんでいます。

まず最初のスタートは、2016年4月～2017年3月までの1年間に午前十時の映画祭と称して29本上演され、ちょうど27本目までたどり着きました。1950年代から90年代のものをすべてデジタル化での上演なのでとても見やすく懐かしい作品がいっぱいです。なかなか家庭に入ってから映画も遠くになっていましたのでその頃の映画が観賞できるなんて嬉しい限りです

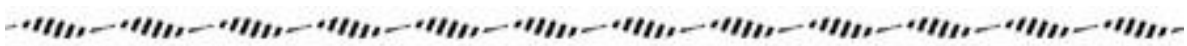
これに並行して6月から月イチのシネマ歌舞伎が始まりました。

あと3月の「二人藤娘/日本振袖始」を残すのみになりました。「野田版 研辰の討たれ」や「身替座禅」では懐かしい勘三郎を満喫しました。シネマゆえに目の動き、足の裁きをアップで映されるので役者の演技力の凄さに圧倒されます。玉三郎の踊りの凄さ美しさに息を飲んでしまいます。1月に観た「阿古屋」では琴、三味線、胡弓を弾く玉三郎は圧巻でした。現在演じられるのは玉三郎ただ一人だそうです。

シネマ歌舞伎にうっとりしていたら、11月からシネマオペラが始まりました。1～2か月前にニューヨークで上演中のメトロポリタン・オペラがすぐに

映像になって観ることができます。日本語字幕が付いているので台詞の内容が解り、オペラ初心者にとっては最高です。《トリスタンとイゾルデ》《ドン・ジョバンニ》《遙かなる愛》《ナブッコ》と観賞しこれからロメオとジュリエットや椿姫など馴染み深いものなど6月まで続きます。

素人にとって馴染みやすい形で芸術に触れられる幸せを噛みしめています



### 新年会風景&うらわ踊り





# 今年も「今が青春」を謳歌しよう

## 気楽印のハイキングクラブ {こまくさ}

深石 記

ハイキングクラブ創立以来昨年11月の嵐山ハイキングで下山中にちょっと足を滑らして不幸にも足を骨折するアクシデントが発生してしまいクラブ会員一同沈んだ気持ちになってしまいました。新年になり怪我をした本人がもう大丈夫と言うことで自ら計画を立て早春の東京に繰り出しました。白梅で有名な湯島天神では約1時間（お昼の食堂の開店待ち）も綺麗に咲いた白梅を見ながら参拝の時間を取り家内安全、孫の合格祈願を長々としたので間違いなく神様に通じたかな？。お昼には天丼専門店ですぐ美味しい天丼と快気祝いにとって



畑中代表がビールをご馳走してくれてほろ酔い気分です。旧岩崎邸を見学して神田明神でまたまた気合を入れて参拝をし、たどり着いたのは御茶ノ水のニコライ堂（東京復活大聖堂）。天神様からキリスト様までお参りをしたのだから今年のハイキングクラブは益々元気ハツラツ楽しい一年が過ごせそうです。帰りにはいつもの様に参加者全員でカンパ~~~~イ。元気印か気楽印かわかんない~~~~い。



# 校友会連合会文化祭芸能発表会&作品展

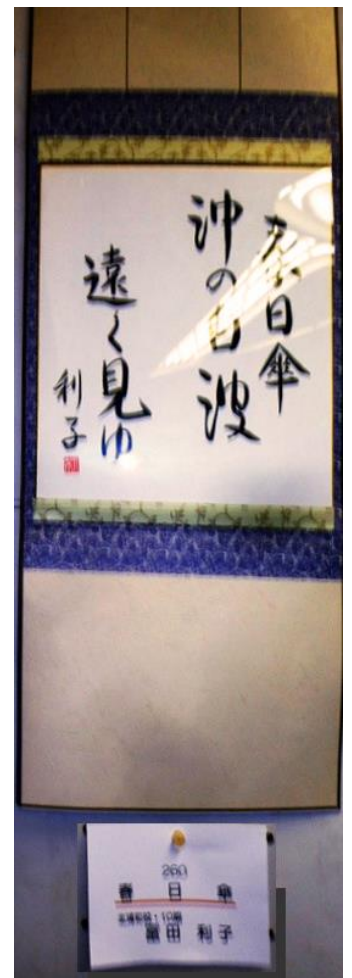
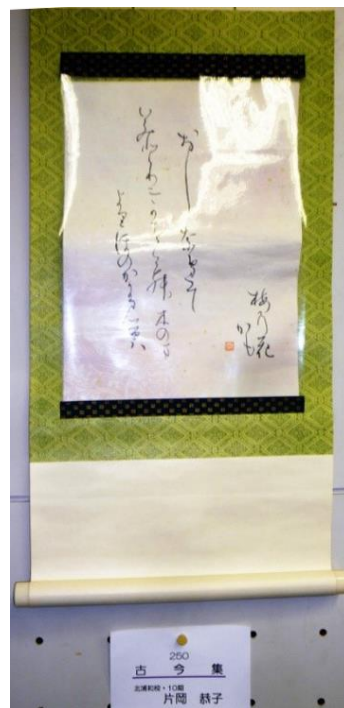
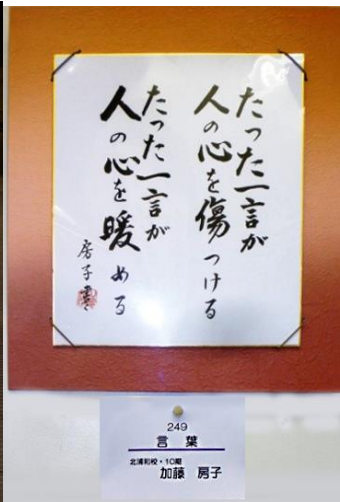
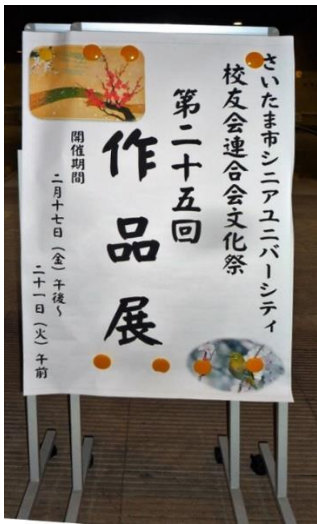
さいたま文化センター大ホール及び展示室(平成 29 年 2 月 19 日)



# 北浦和協議会演芸会(平成 28 年 11 月 16 日)

サウスピア多目的ホール







四国八十八か所巡り 浅田良一

エンディングノートを書くことになった。 12班 片岡 恭子

認知症の母を20年看取って思った。「自分の子供の頃」を思い出して「誰と何処で何をどのようにして楽しかったか」、しっかり書いておこうと。ある時、二カ月程母は「死にたい」と言い続けた。その時のお世話してくれた介護士さんの気持ちは滅入っていたと思う。このような滅入った気持ちになっているとき、「子どものころの楽しかった話」を、お世話して下さる方が話し掛けてくれることにより母は楽しい気分に変換して介護をしてもらえたのではないかと。

90歳の母の心は小学生。私（子供）は母の子どもを知らない。

「子ども達よ 子ども時代を しっかりと楽しんでください。おとなになってから 老人になってから、あなたを支えてくれるのは 子ども時代の「あなた」です。」 石井桃子 書 2001年7月18日 ※石井桃子さんは児童文学作家・翻訳家・「ノンちゃん雲に乗る」の作者。明治40年、浦和の旧中山道常盤2丁目に、6人兄弟の末っ子に生まれ、県立女子師範付属小学校（現高砂小学校）、浦和高等女学校（現浦和一女）、日本女子大学英文科を卒業。31歳から荻窪に住んだ。

編集後記

10期広報誌「かけはし通信 NO.14」が、皆様方のご協力を頂き発行出来ました事に厚く御礼申し上げます。今回は原稿を皆様方に任意でご協力をお願いしました。班で話し合ってお協力頂いたところもあったようで、大変有難く感謝しています。

編集委員 片岡恭子 石井正雄 池田善四郎